

## 公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	こばんはうすさくら 鎌ヶ谷初富教室（児発）			
○保護者評価実施期間	2025年 11月 10日 ~ 2025年 11月 30日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	23	(回答者数)	10
○従業者評価実施期間	2025年 11月 10日 ~ 2025年 11月 30日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数)	10
○事業者向け自己評価表作成日	2026 年 1月 20日			

## ○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	プログラム活動やイベント内容	月間プログラム、イベントは担当職員が作成しているが日々のプログラム内容は当日のリーダーが目的や工夫を朝礼で周知し、夕礼時に評価を行っている。	一人ひとりの個性に合わせた内容をもっと取り入れるように支援中のグループ分けなどを行なう内容を強化していくよう見直しを行っていく。
2	連絡帳、送迎、面談等で活動報告をしている。	全職員でヒストリー・ヒヤリハットを作成し一人ひとりのスピードの違う成長を共有している。 一部の職員だけが周知することが無いように職員同士のコミュニケーションを大切にしている。	安心して活動に参加できるように情報共有を行い保護者の方との信頼関係を築き教室が身近な相談場所になるような関係を整えていきます。
3	朝礼、夕礼時にプログラム内容の目的と振り返りを行っている。	朝礼ではプログラム内容の目的・確認を行い、夕礼ではプログラム内容の評価を行い、日々の変化を共有しています。参加できなくても伝わるように専用のボードを用意し職員間での周知を行っています。	時間の取り方や伝達内容のばらつきを無くす工夫が必要。内容のが担当職員の気持ちが入らないように全体での一日の評価を心掛けていきたい。 課題を常に共有できるよう今後も記録に残していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員会議の時間が確保が難しい。 大きな問題ばかりに意見が集中してしまう。	教室活動を優先にしながら時間作りの工夫が必要、職員の協力を積極的に行っていかないといけない。	参加できない職員にも同じようにタイムリーに内容を共有していく手段の工夫を行い頻度をあげていきます。 教室に必要な内容を常に把握して、必要な研修を行っていくためには声を上げやすい環境を今後も継続していく。
2	職員、児童が直接参加している避難訓練等は保護者へ周知できているが委員会活動などが周知できていない。 研修が参加するだけになってしまっている。	計画時や研修時に行ってている意味を共有を説明することが出来ていなかった。	活動報告を周知できるよう手紙等の工夫をして職員、保護者の方に共有していきます。 研修担当を全職員で行い参加するだけではなく自身の成長につなげていく。
3	幼稚園、保育園との連携が送迎時のみになりやすい。	お互いが限られた時間の中で伝達するためには信頼関係をもつと築き、連携を取れるように時間を作っていく必要がある。	保護者の方が安心して両方の事業を利用できるように、関係機関とこまめな情報共有を心掛けていき子ども達の特性や成長を共有し同じ支援が出来る環境を整えていきます。

## 公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	こばんはうすさくら 鎌ヶ谷初富教室（放デイ）			
○保護者評価実施期間	2025年 11月 10日 ~ 2025年 11月 30日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20	(回答者数)	12
○従業者評価実施期間	2025年 11月 10日 ~ 2025年 11月 30日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数)	10
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 20日			

## ○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	プログラム活動やイベント内容	月間プログラム、イベントは担当職員が作成しているが日々のプログラム内容は当日のリーダーが目的や工夫を朝礼で周知し、夕礼時に評価を行っている。	一人ひとりの個性に合わせた内容をもっと取り入れるように支援中のグループ分けなどを行なう内容を強化していくよう見直しを行っていく。 常に改善点を見つけられるように日々の記録を残す。
2	連絡帳、送迎、面談等で活動報告をしている。	全職員でヒストリー・ヒヤリハットを作成し一人ひとりのスピードの違う成長を共有している。	安心して活動に参加できるように情報共有を行い保護者の方との信頼関係を築き教室が身近な相談場所になるような関係を整えていきます。
3	朝礼、夕礼時にプログラム内容の目的と振り返りを行っている。	朝礼ではプログラム内容の目的・確認を行い、夕礼ではプログラム内容の評価を行い、日々の変化を共有しています。参加できなくても伝わるように専用のボードを用意し職員間での周知しています。	時間の取り方や伝達内容のばらつきを無くす工夫が必要。内容が担当職員の気持ちが入らないように全体での一日の評価を心掛けていきたい。 スマールステップを心掛け職員で意見を出し合っている。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員会議の時間が確保しづらい。	教室活動を優先にしながら時間作りの工夫が必要。	参加できない職員にも同じようにタイムリーに内容を共有していく手段の工夫を行い頻度をあげていきます。 朝礼・夕礼を活用し日々の気づきを声に出せるようにする。
2	職員、児童が直接参加している避難訓練等は保護者へ周知できているが委員会活動などが周知できていない。	計画時や研修時に行っている意味を説明して共有する。	きちんと行っている活動報告を周知できるようお手紙等の工夫をして保護者の方に共有していきます。 研修担当を全職員で行い、参加するだけではなく伝える側も経験し身に付けるよう工夫をしていく。
3	利用回数、利用時間によって提供できる内容のばらつき幅を整えて支援をしていきたいが実際は確認が出来ていないプログラムもあると思う。	児童に対して個別対応できるだけの職員確保は難しいが、日々の記録を残して全職員の意見を共有し以前より内容の確認が取りやすくなっている。	時間さがあるような時はプログラム内容の目的を見直し少しでも一人ひとりの特性に寄り添った支援が出来るよう職員研修を強化していき日々の積み重ねを大切にしていきたい。